

あかし保健所管内 感染症発生動向調査(2019年第6週) 2019/2/4~2019/2/10

あかし保健所 保健予防課 感染症対策係  
電話:078-918-5421

【定点把握対象感染症発生状況(定点医療機関あたり患者数)】

小児科定点(7医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	2	3	4	5	6
RSウイルス感染症	0.43	0.71	0.43	1.71	1.29
咽頭結膜熱	0.29	0.14	0.29	0.00	0.14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.29	0.57	0.43	1.57	2.14
感染性胃腸炎	8.86	10.57	6.57	6.29	5.43
水痘	0.71	0.14	0.29	0.14	0.29
手足口病	0.29	0.00	0.14	0.00	0.00
伝染性紅斑	0.14	0.29	0.29	0.29	0.14
突発性発しん	0.57	0.14	0.00	0.14	0.29
ヘルパンギーナ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	0.43	0.00	0.14	0.00	0.00

インフルエンザ定点(11医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	2	3	4	5	6
インフルエンザ	29.73	57.27	41.27	33.73	20.09

眼科定点(2医療機関)

疾病名称\週	2019年				
	2	3	4	5	6
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※定点医療機関あたり患者数とは

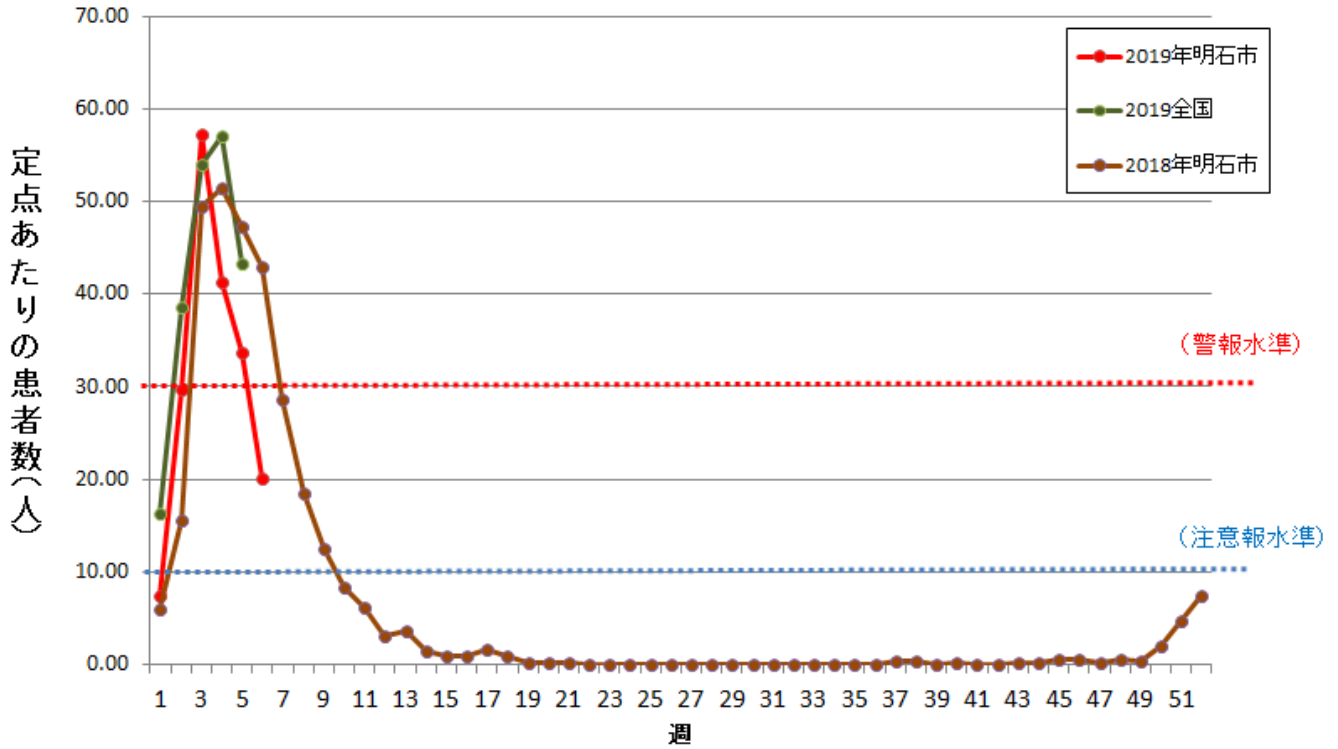
定点医療機関とは、保健所に一定の基準に従い、感染症の発生状況を報告してもらった医療機関のことです。

また、定点医療機関あたり患者数とは、一週間に一つの定点医療機関から、どのくらいの報告があったかを表す数値で、この数値によって各地での感染症の流行を把握することができます。

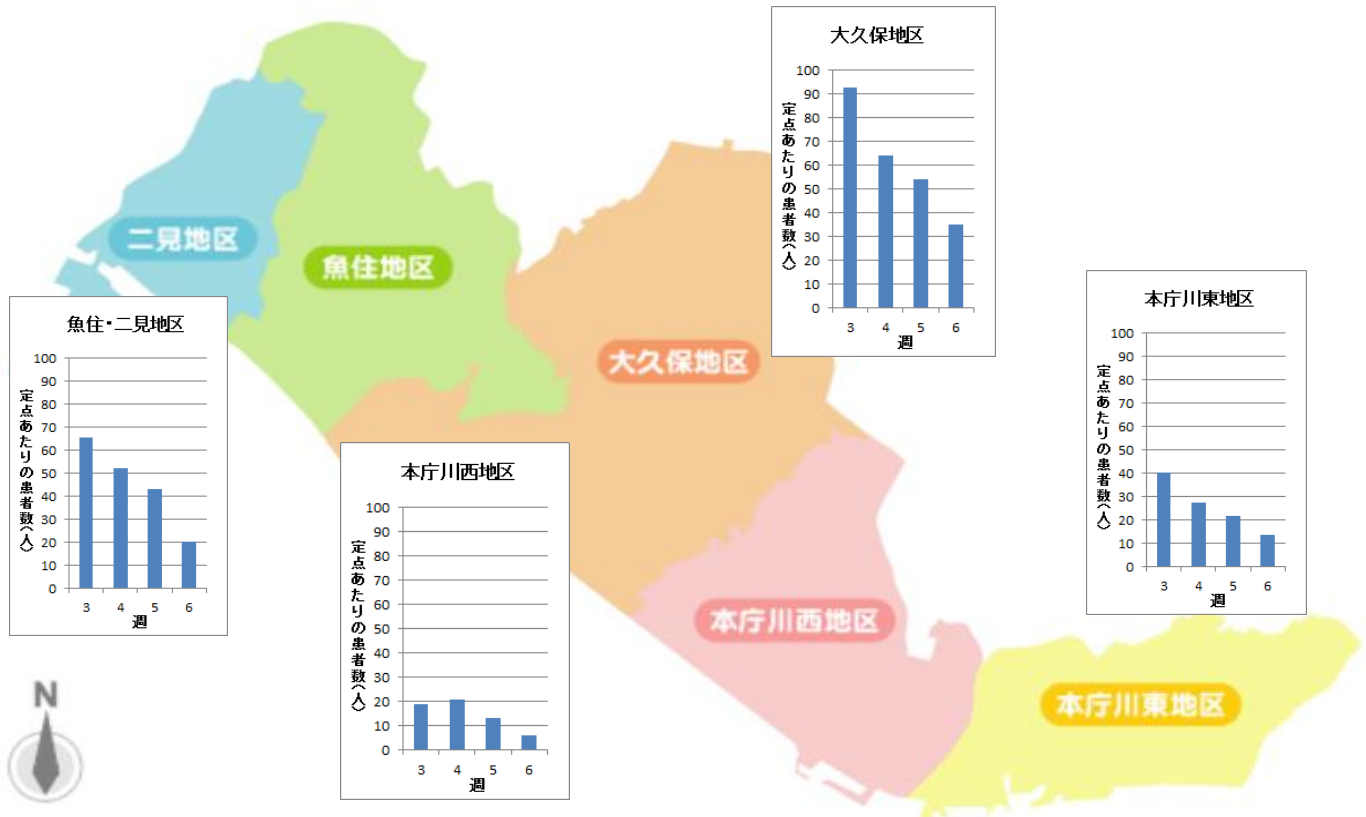
たとえば、あかし保健所管内で感染性胃腸炎の報告が合計20件あったとすると、定点医療機関あたりの患者数は、報告数(20件)をあかし保健所管内の定点医療機関数(7医療機関)で割り算をします。そうすると、定点医療機関あたりの患者数が計算できます。

この場合は、 $20 \div 7 = 2.86$ となります。

## 定点あたりのインフルエンザ患者報告数



## 地域別 定点あたりのインフルエンザ患者報告数



【全数把握対象感染症発生状況】

感染症分類	疾病名称\週	2017年	2018年	2019年					
				2	3	4	5	6	1週~累計
二類	結核	69	79	3	2	3			8
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	11						0
	細菌性赤痢		1						0
四類	E型肝炎		1						0
	デング熱		1						0
	日本紅斑熱		1						0
	レジオネラ症	3	12	1					1
五類	アメーバ赤痢	2	3						0
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎、E型肝炎を除く)	1	1						0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		2						0
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	23			1	1		2
	梅毒	8	11			1			1
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	5	2				1		1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	3						0
	後天性免疫不全症候群	1	2						0
	播種性クリプトコックス症	1	0				1		1
	百日咳※	-	3			1	4	3	8
	麻疹	2	1						0
	風しん		3						0

※百日咳は2018年1月1日から五類感染症の全数届出対象となりました。

**百日咳の患者数が増加しています**

明石市内の百日咳累積患者数が2019年第6週までに8人となりました。内7名は家族内感染(1名は感染原因不明)で、年齢別によると0歳が2名、5~9歳が6名となっています。兵庫県内においても第5週までの累積患者数が63人となっています。百日咳は、感染力が強く、乳幼児が感染すると重症化しやすいため注意が必要です。

[百日咳とは]

- ・百日咳にかかった人の咳やくしゃみ、つば等のしぶきに含まれる百日咳菌を吸い込むことや(飛沫感染)、接触により感染します。潜伏期間は7~10日間とされています。
- ・最初は普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて、程度も激しくなります。発熱は無いが、あっても微熱程度です。
- ・次第に特徴のある発作性けいれん性の咳が2~3週間続き、約2~3ヶ月で回復します。
- ・新生児や乳児では重症化することが多く、特に6ヶ月未満の場合、死に至る危険性もあります。
- ・成人の場合、咳が長期にわたって持続しますが、典型的な咳がなく、百日咳とわからないことも多くあります。しかし、菌の排出があるため、感染源となり、周囲へ感染を拡大させてしまうことがあります。

[予防方法など]

- ・日頃から、流水とせっけんによる手洗いをしましょう。
- ・咳の症状がある場合は、マスクをするなどの咳エチケットを実施し、咳が長引く場合は、早めに受診しましょう。
- ・百日咳の予防には四種混合ワクチン(DPT-IPV)が有効です。生後3ヶ月以降、できるだけ早期に接種しましょう。